

半固形製剤の胃排出是正効果と 臨床栄養での有用性

静岡県立こども病院 小児外科

矢本 真也

【目的】 胃瘻を持つ小児において胃食道逆流やダンピング症候群の報告が散見される。特に噴門形成を行なった児においてのダンピング症候群は認識以上に多い。本邦においてミキサー食の有効性についての報告があるが、介護者の負担が多いことも問題点である。経腸用半固形剤がミキサー食の代わりになることが期待されているが、経腸用半固形剤使用報告は未だ少ない。今回、当院にてラコール NF 配合経腸用半固形剤を使用し、その効果と適応について検討したため報告する。

【方法】 2013年～2015年に当院にてラコール NF 配合経腸用半固形剤を使用した53例を対象とし、後方視的に検討した。そのうち14例に消化管シンチグラフィーを行ない、ラコール NF 配合経腸用半固形剤の胃排泄時間を検討した。

【結果】 症例は1歳3ヶ月～20歳、ダンピング症候群治療目的に使用した10例中7例に改善を認め、胃食道逆流のある10例中7例に改善を認め、胃瘻漏れに使用した1例にも改善を認めた。ミキサー食の代用として45例で現在も使用している。中止は8例であり、原因はダンピング症候群に効果のなかった3例、胃食道逆流に効果のなかった2例、十二指腸への通過時間が遅延し、腹部膨満を認めた2例、経口摂取が可能となった1例であった。合併症としては便秘が3例に認められたが、緩下剤にて軽快した。消化管シンチを行なった14例での Half empty time は経腸栄養剤で平均29分から半固形剤で平均60分に延長し、ダンピング症候群であった6例は経腸栄養剤で Half empty time が平均7.1分から半固形剤で平均25.3分と延長した。

【考察及び結論】 小児におけるラコール NF 配合経腸用半固形剤は安全に使用でき、ダンピング症候群や胃食道逆流症においても効果が得られた。ミキサー食との併用を行なうことで、介護者の負担を減らすこともできるため有用である。